

〈PR〉

カラダの 相談室

ハーブ岸和田眼科 院長

藤井 誠士郎さん

第2回



硝子体手術

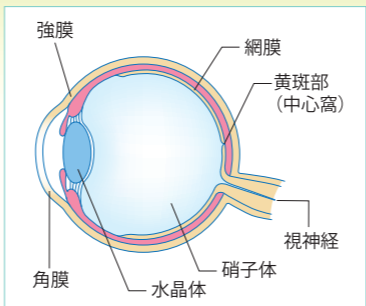
硝子体(しょうしたい・図)疾患の原因はさまざまです。無色透明の組織が変性して網膜から剥がれていろいろな悪い影響を与えます。手術治療は入院が必要でしたが、今では日帰り手術も可能な時代になりました。

疾患原因は加齢や生活習慣 最近では日帰り手術も可能に

Q 眼の病気で硝子体手術を受けるようにと言われました。硝子体の役割や悪くなる原因、そして手術はどのようにするのが教えてください。

A 硝子体は眼球の内部の大部分を満たしている無色透明のゼリー状の組織で水晶体の後ろから網膜と軽く接しています

が、眼の奥の一部では密着しています。胎児のときに眼の発育に必要な組織でしたが成長したあとは無色透明の組織で眼球の形を保つとともに、外からの衝撃を吸収する働きがあります。



また、若いころには硝子体のゼリー状の中身は、眼球にきちりと詰まっていますが、年齢とともにサラサラになっていきます。そうすると眼底や網膜から硝子体が剥がれることもあります。

この組織が衰えたり、変性したりして起こる病気には「網膜体剥離(はくり)」や「硝子体出血」「黄斑上膜(おうはんじょうまく)」「黄斑円孔(えんこう)」などがあります。これらの疾患に対しては、変性した硝子体を切除して引っ張る力をなくす硝子体手術が行われます。

まず、眼の奥に局所麻酔をして、0.4〜0.6mmの小さな穴を3、4カ所あけます。その穴から滲出液(かんりゅうえき・

形を保つための液体や濁った硝子体、網膜に引っ付いた組織などを取り除く硝子体カッター、内部を照らすライトガイドなどを入れて顕微鏡下で行う手術です。時間は疾患や症状の程度によりますが、20〜30分程度と考えてください。

また、網膜剥離や黄斑円孔などの手術では、手術終了時に硝子体腔に医療用の特殊なガスを入れ、うつ伏せ姿勢になってもらう場合があります。ガスは比重が軽く、眼内の産生される水より上方に向かう特性があり、この姿勢をとることで剥がれた網膜を復位(元に戻す)させることができます。うつ伏せ姿勢は治療の一環であり、自宅でのうつ伏せが難しい人は入院する方がよいと思います。

網膜剥離の原因となる裂孔の場所が眼球の下方であればうつ伏せ姿勢が長く必要になり、眼球の上方であれば比較的短時間で済む場合もあります。また置換するガスの種類によってもうつ伏せの期間は変わってきます。置換した空気が眼内で作られる水に置き換わる期間は、約1週間、医療用の特殊なガスの場合は約2週間や約4週間のものもあり、それぞれ疾患に応じて眼内を置換するガスを選択します。

硝子体疾患の原因は加齢や生活習慣などさまざまです。特に糖尿病の方は注意が必要です。血糖値が高いと血管が弱くなり網膜に障害が起きやすくなります(糖尿病網膜症)。進行すると失明に至ることもあります。大切なことは血糖のコントロールと眼科での定期的な眼底検査が必要不可欠です(次回は涙道内視鏡手術)。



〈企画・制作〉産経新聞社メディア営業局

ふじい・せつしろう 兵庫医科大学卒業。製鉄記念広畑病院、神戸大学医学部眼科学教室、多根記念眼科病院、吹田徳洲会病院を経て令和3年開院。日本眼科学会認定眼科専門医。日本眼科学会、日本眼科手術学会、日本白内障折矯正手術学会、日本涙道・涙液学会、日本網膜硝子体学会に所属。
☆ハーブ岸和田眼科
大阪府岸和田市土生町2の29の3
Tel 072・437・9000